

1学年だより

上越市立板倉中学校
第14号 10月23日発行
文責 学年主任 金子 均

ハリネズミのジレンマ ～ そばにいたい、でも近づきすぎると～

ハリネズミのジレンマ

ある寒い日、2匹のハリネズミが、お互いに身を寄せ合って温め合おうとしたが、近づきすぎると全身の針が相手に刺さって傷つけてしまう。

かといって、離れると今度は凍えてしまう。2匹は近づいたり離れたりを繰り返して、最後は互いに傷つけ合わず暖もとれる最適な距離を見つけた。



背中に無数の
の棘がある。

ハリネズミ

これは、ドイツの哲学者ショーペンハウアーが執筆した、随筆集「余禄と補遺」の中にある寓話をもとに、心理学者のフロイトや精神分析医のベラックが引用して人間関係のあり方を解説したもので、「ハリネズミのジレンマ」と呼ばれています。アニメの『新世紀エヴァンゲリオン』第4話で主人公のシンジが家出した時、ミサトとリツコの会話にもこの寓話が使われたことで、アニメファンには浸透しているお話です。みなさんは、聞いたことがあるでしょうか。

中学生になり、交友範囲が広がり、新しい友達を作っている1年生も相当数います。その反面、友達との関係に悩み、苦しんでいる人もいるのではないのでしょうか。そのような人には、この「ハリネズミのジレンマ」を参考にしてもらいたいと思います。

ハリネズミのジレンマの意味とは、人は近づきすぎると傷つけ合ってしまう。また、傷つけ合うことを恐れて距離を置きすぎると、今度は疎遠になりすぎて仲良くなることができないという意味だとされています。

人に針は生えていませんが、目に見えない針（触れられたくないもの）があるため、必要以上に近づいて、その人の心にズケズケと侵入していくと相手を傷つけてしまうわけです。また、そのことで自分も傷つくことがあるのです。逆に、傷つけ合うことを恐れて距離を置きすぎると、『新世紀エヴァンゲリオン』の主人公のシンジのようになかなか友達をつくることができません。すなわち、人間関係を築いていくとき、人にはそれぞれの最適な距離があるということなのです。

しかも、個人個人が持っている針の長さは異なっているし、相手によっても必要に応じて長さを変えることがあるのです。

寓話に登場する2匹のハリネズミのように、近づいたり離れたりを繰り返して、最適な距離感を見つけ、よりよい人間関係を築いていってほしいと思います。



※10/26（月）から完全衣替えとなり、制服登校となります。制服の準備をお願いします。